

令和元年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1470801182	事業の開始年月日	平成18年 1月 11日
		指定年月日	平成18年 1月 1日
法人名	株式会社 ニチイ学館		
事業所名	ニチイケアセンター富岡東		
所在地	(〒236-0017) 神奈川県横浜市金沢区富岡東4丁目19番2号		
サービス種別 定員等	<input type="checkbox"/> 小規模多機能型居宅介護	登録定員	名
	<input checked="" type="checkbox"/> 認知症対応型共同生活介護	通い定員	名
		宿泊定員	名
		定員計	18名
		ユニット数	2ユニット
自己評価作成日	令和1年10月5日	評価結果 市町村受理日	令和2年1月28日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	
----------	--

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

建物周辺は公園等が多く、静かな環境で四季折々に変化を感じながら日々の買い物や散歩に出掛け気分転換を図って頂いている。
広い居室や職員と一緒に調理準備ができるアイランドキッチンを設置している。
医療連携体制加算を取得し、訪問看護師と連携して健康管理を行っている。
体調を確認しながら毎身体操を行い、体力維持を図っている。
町内会の盆踊りに参加したり、子供神輿の来所、地域の行事に参加など交流も行って
いる。近隣の保育園との交流、中学校の福祉体験学習や高校の実習の受入れも行って
いる。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人かながわ福祉サービス振興会		
所在地	横浜市中区山下町23番地 日土地山下町ビル9階		
訪問調査日	令和1年11月5日	評価機関 評価決定日	令和1年12月25日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

【事業所の概要】
この事業所は京浜急行京急富岡駅から歩いて7分ほどの所にある。1階がデイサービス、2階が2ユニットのグループホームとなっている。法人は教育事業を軸に訪問介護や介護施設などを全国展開している。道路を挟んで大きなお寺があり災害時の一次避難所となっている。
【恵まれた環境】
裏手には大きな公園や高校があり散歩が手軽にできる環境にある。公園内のログハウスからは子供たちの歓声が聞こえてくる。道路を隔てた寺院は一時避難場所としてだけではなく、日頃の散歩道として近隣の方とあいさつを交わす場ともなっている。近隣の保育園や中学校とも連携し、園児の来訪があったり、体験学習も行っている。利用者は静かな環境で四季を堪能しながら生活している。
【ゆったりとした生活】
近隣環境も恵まれているがグループホーム内もゆったりと作られている。大きめのリビングにはアイランドキッチンが置かれ、利用者と一緒に調理もできる。また広い廊下は車椅子2台が並行して通れる広さがある。建物のコーナーも一部屋分の広さがあり、一人でゆっくりしたい利用者には居心地の良い場所となっている。壁飾りも四季の移り変わりが感じられるよう、シンプルに工夫されている。

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	9～13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	14～20
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	ニチイケアセンター富岡東
ユニット名	潮さい

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員と一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

事業所名	ニチイケアセンター富岡東
ユニット名	なぎさ

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
			4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、活き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関口、ユニット内に基本理念を置き、理念のもとに働き、実現に向けて取り組んでいる。	法人の社是と事業所の理念を毎月のミーティングの際に唱和している。玄関と事務所に掲示し、忘れないようにしている。職員は理念に沿って利用者第一に考え行動するよう日々のケアに取り組んでいる。	管理者に就任して間もないこともあり、理念への理解の確認、理念を設定した時点の想いなどを職員全員で共有する機会を持つことを期待します。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会の行事に参加している。	町内会に加入し回覧板が回ってくる。毎年10月に近隣の保育園から園児たちが来訪し交流している。中学生の福祉体験学習での来訪が予定されている。祭りの際は子供神輿が来て利用者との交流がある。デイサービスにボランティアの来訪がある時は共に楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学・高校の職場体験の受入れを行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	管理者のシフト調整がうまくいかず、開催できないことが多かった。8月管理者変更後9月27日に開催している。	管理者が交代してから9月と11月に運営推進会議を開催した。地域の民生委員と町内会長が出席している。地域包括支援センターや利用者家族の参加はまだないが、現在は根気よく出席を呼びかけている。来年度は定期的な開催を予定している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護相談員を導入 金沢区グループホーム連絡会に入会しているが、管理者シフト調整がうまくいかず会合に参加できていない。	市や区役所には法人が手続きに出向く。介護相談員の来訪があり、定期的に利用者との話し合いを行っている。運営推進会議の議事録は郵送している。図書館に紙芝居を借りに行く事がある。	運営推進会議の議事録を持参したり、同会議への参加を呼びかけたりしながら、行政との協力関係の構築を期待します。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修を行い、理解を深めている。身体拘束廃止委員会を設置しており、検討内容などを毎月のミーティング時に職員間に周知している。	毎月ミーティングの際に「身体拘束廃止委員会」を開きセンサーマットの是非等の話し合いを重ねている。職員には研修も行っている。事業所玄関、ユニット間の施錠はしていない。ベランダは転落の危険があるので職員と共に出るようにしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	研修を行い、理解を深めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要に応じて制度を活用できるように説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に不安や疑問が解消されるように細かく説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	契約時に苦情対応を説明し、重要事項説明書にも当社以外の窓口を記載している。法人の顧客満足度調査により苦情や意見を頂き、改善できるように努めている。	法人のアンケートで毎年、要望を聞き取っている。レクリエーションの希望や行事についての意見が寄せられており、来年の3月に家族交流会を予定している。またイベントが少ないという意見に対しては、周知が足りないことによる誤解であるという観点から、多くのイベントを行っていることを広報紙の復活で広く周知をしようと企画している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送り時などに意見を聴き、反映可能なものは検討している。	毎月のミーティング時に職員から意見を聞き取るほか申し送りノートなどでも意見が寄せられ運営に反映させている。入浴を好まない利用者に入浴剤を使用してはどうかとの提案があり実行した結果、体が温まると、どの利用者にも喜ばれた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアアップ制度を設けて、個々が目標を持ち働けるように努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社内研修への参加や外部研修の案内を提示し参加を促している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	金沢区グループホーム連絡会に参加して、情報収集及び交流を深めている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	アセスメントを兼ねて傾聴しながら、その人柄を知る努力をしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に要望や心配事等を聞き、些細な事でも相談できるような関係作りを心がけている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	主治医の選択などを含め、対応可能なサービス提案ができるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に行ったり、本人が得意な事を職員が教わったりしながら共に過ごす時間を大切にしている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	来所された時に話しを聴き意見・要望を取り入れた計画作成を心がけている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等が来訪した際は、再訪していただけるよう歓迎の意を表すよう努めている。	知人の来訪がある際は湯茶で持てなしを行っている。各ユニットでそれぞれ新聞を取っており、利用者の毎朝の習慣継続を支援している。お正月は馴染みの富岡八幡に初詣に行く方もいる。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り、交流が図れるように声かけを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も相談等ができる事を説明している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者志向の理念のもと、コミュニケーションを取ったり、本人の希望や意向が把握できるように努めている。	日頃の生活の中でソファでくつろいでいる時や入浴の際などに聞いた本人の思いや意向を日常生活支援シートに記入し、情報を共有している。困難な場合は表情から読み取るようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式を活用し情報収集を行い、できるだけ今までに近い生活が維持できるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	介護記録により24時間の生活リズムを知り、把握するようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	カンファレンスを行い、意見を聴き介護計画を作成している。	容態の変化が大きい時以外は6か月ごとに日常生活支援シートでアセスメントを行っている。家族が来られる日に合わせてサービス担当者会議を開いている。職員は毎月のカンファレンスの他にも居室担当職員が出勤している時にミニカンファレンスを開く等、利用者に関する情報共有を頻繁に行っている。得られた情報はケアプランにも盛り込み支援している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	気づきや工夫についてはその場で話し合いを行い、情報を共有し見直しを行うようにしている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	法人の多機能性を活かしたトータルケアの対応が可能のため、家族の要望に対応できるよう連携を取りながら行っている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	保育園との交流や町内のお祭りで子供神輿に來所いただいたり、中高の職場体験にも協力することで生活を活性化する努力をしている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診医以外の通院の際は本人の様子を家族および往診医に報告している。	従前のかかりつけ医を利用している利用者が1名いる。他の利用者は協力医の診察を受けている。専門医の受診は原則家族対応であるが職員が支援することもある。情報は個人ファイルに残し申し送りノートにも記載している。毎週訪問看護師が来て健康状態を把握し、結果を職員が協力医に報告している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	来訪時に相談にのってもらっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	介護サマリーを製作し、病院に行ったり、電話にて情報交換を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	主治医と家族と三者面談を行い対応を検討している。	入居前に「重度化した場合における対応に係る指針」を説明し、同意を得ている。医師が回復の見込みがないと判断すると家族との3者の話し合いで看取りを行うか決め、支援を行う。数件の看取り実績がある。3月に看取りの研修を行った。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修を行い、マニュアルを閲覧できるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害マニュアルを作り閲覧できるようにしている。地元消防署の協力のもと避難訓練を行っている。	毎年デイサービスと共に2回の訓練を行っている。3月は漏電からの火災という設定で避難誘導の訓練を行った。11月は消防署の協力を得て夜間想定火災訓練を企画している。地域の消防団とも連携している。水や食糧などは3日分備蓄している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけを工夫したり、見守りをしている。	利用者の生活歴を確認し、家事の好きな人に家事を手伝ってもらったり、できる事をしてもらいながら、その人らしさを発揮できるよう工夫している。トイレや風呂場に誘う時には、「ちょっとこちらに」など声掛けを工夫している。服なども自分で選べるようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自己決定を尊重し支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースを尊重し支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の選択を尊重している		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	得意分野を活かしながら、準備や片付けを一緒に行っている。	半調理品を温めるユニットと、材料の配達を受け職員が調理しているユニットがある。どちらも利用者が盛り付けや片づけを手伝ったりしている。外食には出ないが、行事でそば打ちやすしの職人が来ることもある。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	拒否時は無理強いせず、時間を空けたり、好みの物に変更したり工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後ケアを行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンを把握し適宜誘導している。	各ユニット3か所のトイレがあり、うち1か所は脱衣所側にもドアがついている。全員の排泄をチェックできるよう新たに表を作り、一目でわかるようにした。チェック表を見ながら個別に誘導を行っている。「ちょっと歩きましょう」や「そこまで歩きましょう」とさりげなく声掛けした結果、失敗の回数が減った。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	飲食物を工夫するなど予防を行っている。医療機関と連携し改善策を話し合っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しむように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	入居者の意向に合わせ、無理強いしていない。	入浴は1日3人を原則とし、一人ひとりお湯を換えている。週に2回以上入浴できるよう声掛けを行っている。浴室は広く3方向から介助できる小さめの浴槽がある。入浴を好まない利用者には対応する職員を替えたり時間をずらして誘うなどの工夫をしている。入浴剤は喜ばれている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の希望に沿っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書ファイルをいつでも確認できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	趣味を楽しんで頂いたり、得意な事を行って頂いている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や入居者の体調に合わせスタッフと一緒にいる。	隣接する寺院や公園へ散歩したり、ログハウスに集まる子供たちを見に出かけることが多い。時にはベランダに出てお茶を飲んだり日光浴を行う事もある。法人の方針で車での遠出はできないため、近隣小学校などの運動会へ出かける計画をしている。家族の協力で外出する利用者も多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	使いたい時はお渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望であることがある。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	不快感がないように掃除を毎日行っている。	事業所の2階の全面を2ユニットに区切り、広々した廊下でつながっている。隣接する公園が背景となり、広いリビングが緑に包まれている。リビング内の飾りをシンプルにし、季節の移り変わりが実感できるよう工夫している。コーナーには椅子やソファが置かれ一人の時間も大切にしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居室を行き来する利用者もいる。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具・小物・写真を持ってきてもらい、居心地よく暮らせるように工夫している。	居室にはエアコン、照明器具、クローゼット、カーテン、洗面台が備え付けられている。利用者は、テレビや本棚、机や籐椅子、仏壇など使い慣れた品物を持ち込んでいる。またぬいぐるみや時計、カレンダーなどそれぞれ好みのものを持ち込み暮らしやすい工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自立支援を前提に分かりやすい表示をし、混乱を防ぐような環境作りを行っている。		

目 標 達 成 計 画

事業所名 ニケイアセンター 富岡東

作成日 2020年 1月 20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	5	市町村との連携が弱い	行政との協力関係の構築	運営推進会議の議事録等を郵送でほか、持参対応して顔を見ていた。 釜石区グループホーム連絡会の会合に積極的に参加する。	6～12ヶ月
2	10	ご家族様からの意見として番役ごのおな生活をしたいのか知りたい等の意見が上がっている	来訪頻度が低いご家族様にも、番役の生活の様子を伝えおこなう。	ご家族様向けの定期的な便りも検討中。現在作成に入っている(季刊誌)	1～2ヶ月
3	4	運営推進会議が管理者のシフト調整が上手くいかず、開催できないことが多かった。	年6回の開催を基本とする。	運営推進会議の年間予定を作成済み。 シフト作成時に話し合いを	1年
4					
5					

注) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。
注) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。